

# 長崎県森林組合連合会の取組

---

林業の成長産業化に向けた取り組みについて

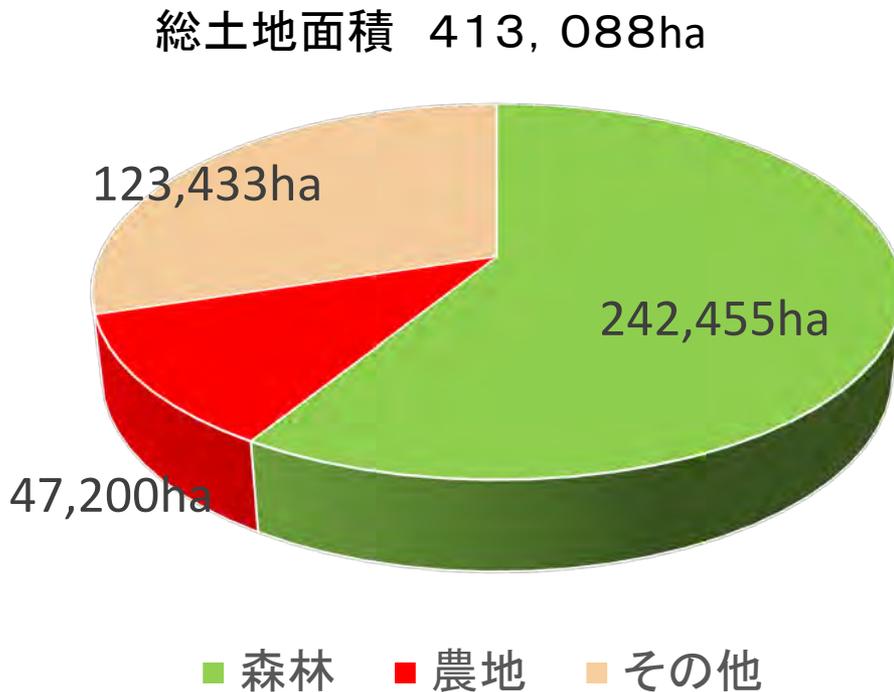
令和元年11月22日

長崎県森林組合連合会 専務理事 佐藤義高

## 長崎県の土地面積

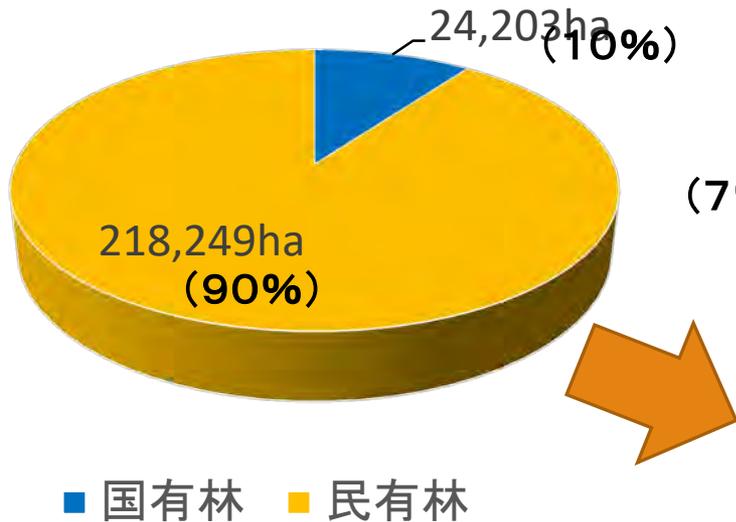
長崎県の森林率は59%で、離島・半島部が多く地形も入り組んでおり、農地は11%しかない状況。

なお、森林面積のうち離島地域が46%を占めている。

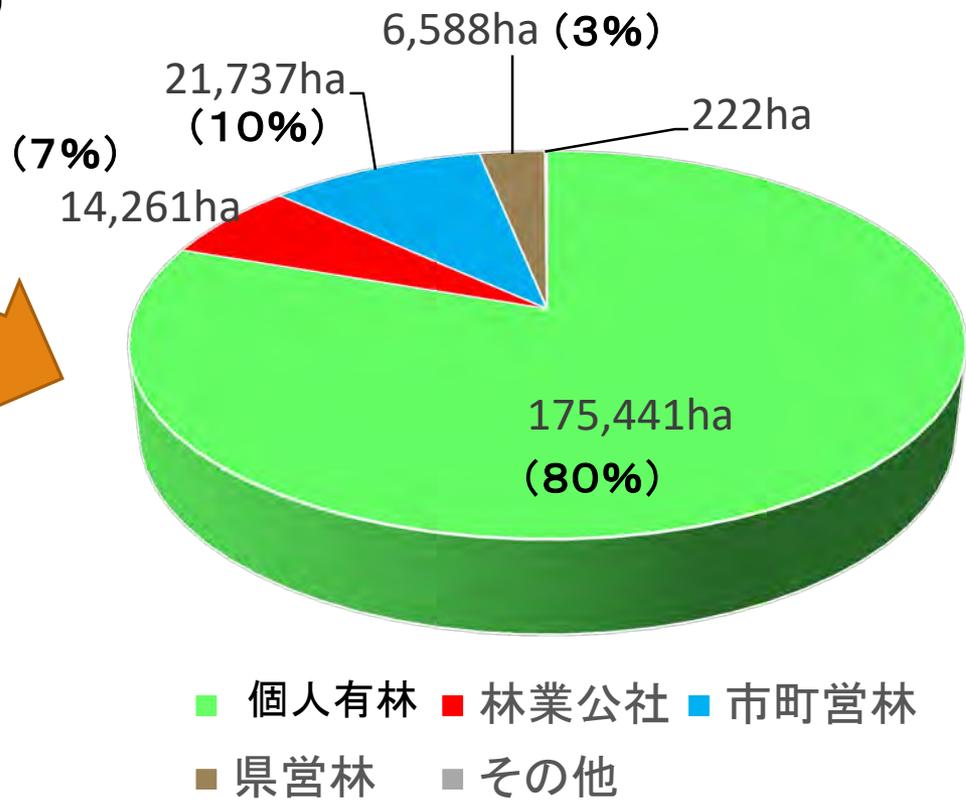


# 所有形態別の森林面積

## 森林面積の区分

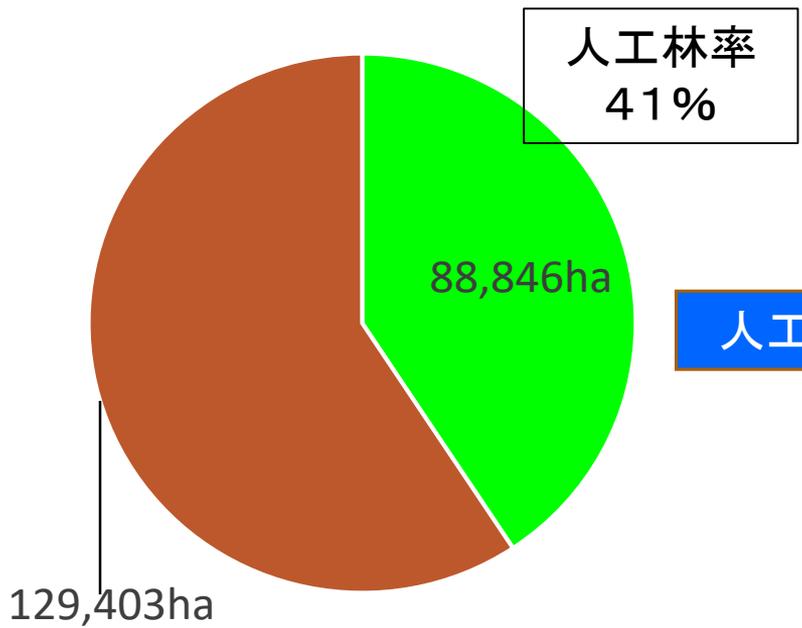


## 民有林 所有形態別面積

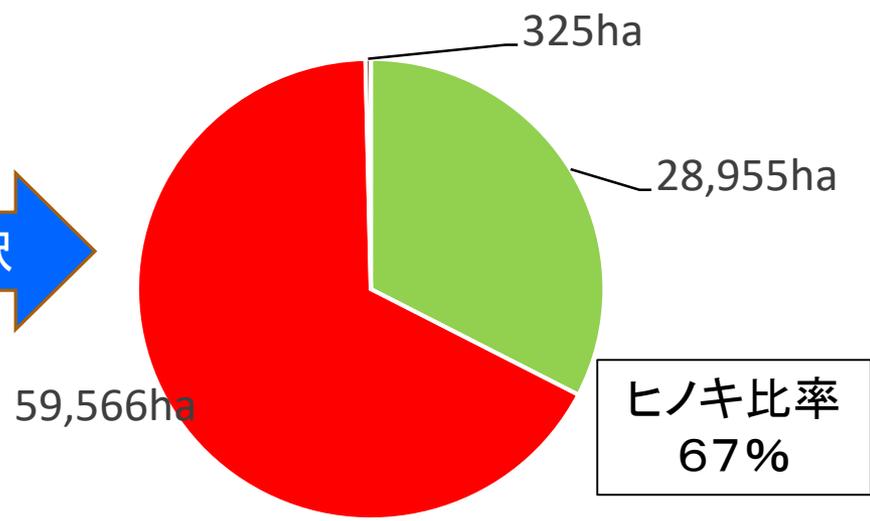


# 樹種別の森林面積

## 人工林・天然林森林面積



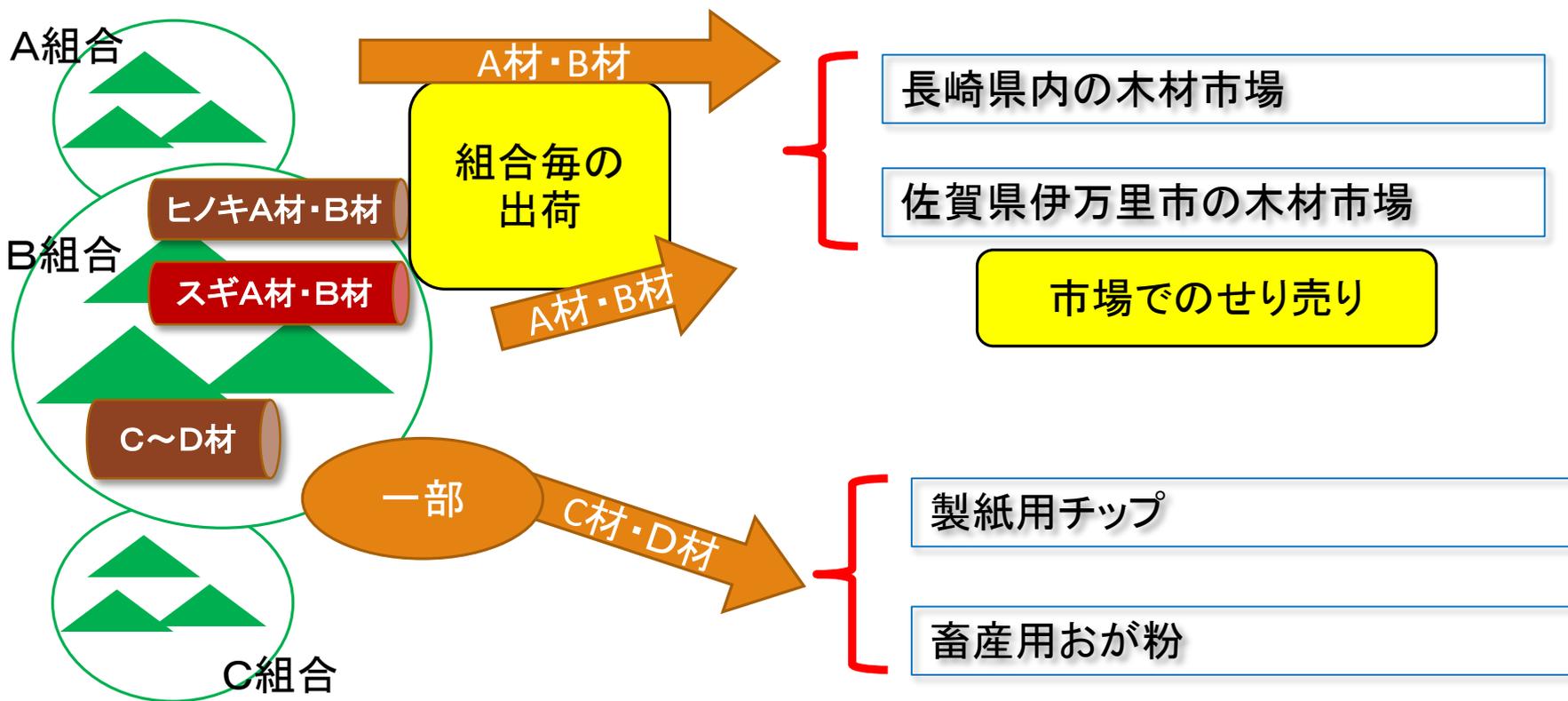
## 人工林樹種別森林面積



- 人工林
- 広葉樹・竹林等
- スギ
- ヒノキ
- その他針葉樹

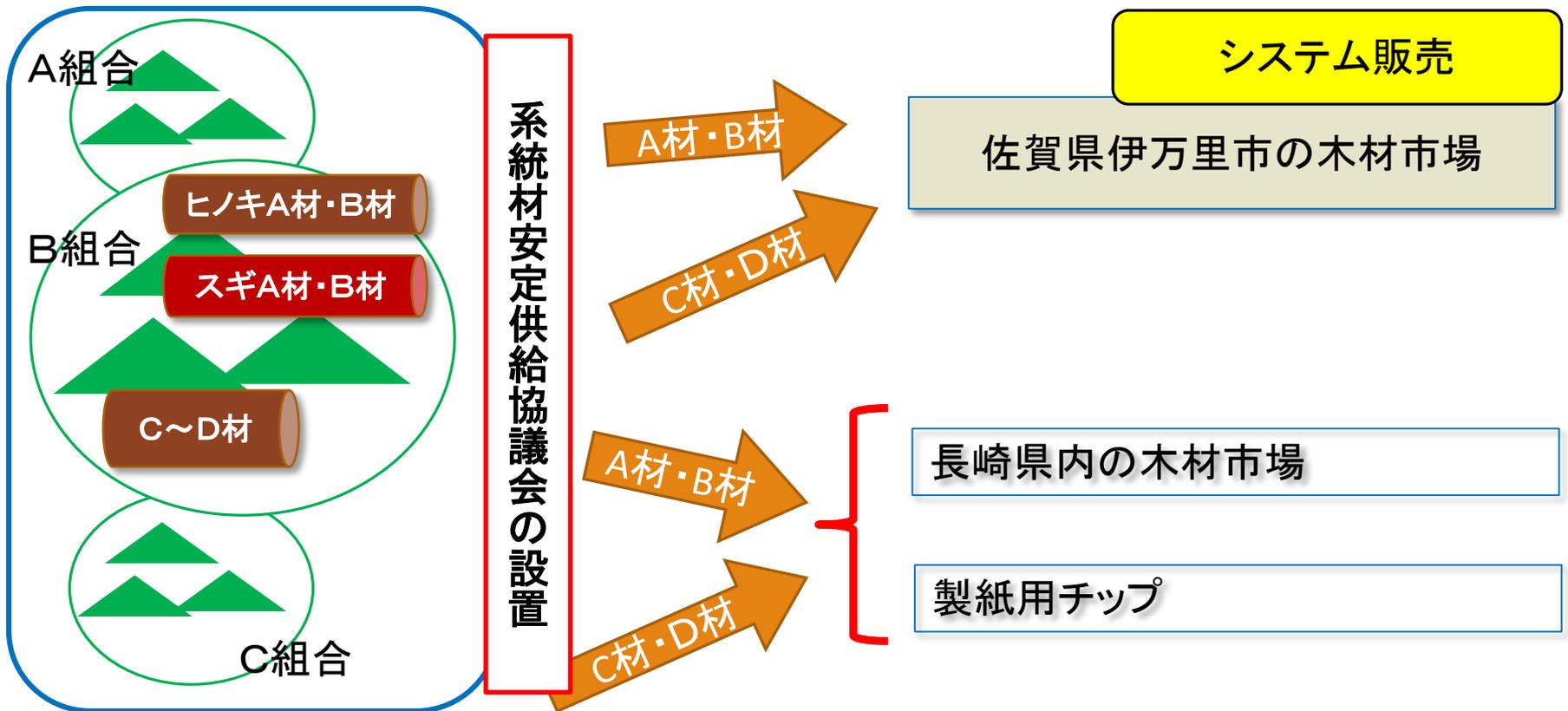
# これまでの木材流通（平成23年以前）

- 県内の製材工場が零細であり、原木市場も規模が小さく1か所しかなかった。
- 県外の佐賀県伊万里市にある原木市場に持ち込むしかなく、しかも建築材料となる、A材B材が主体であった。
- C材D材の丸太は、一部を除いて、山に捨て置かれているのが実情。



# 協定販売の取組

- せり売りでは、木材価格の季節変動が激しく、大幅に下落するようなこともある。
- 森林組合の経営のためには、単価のアップだけでなく価格の安定も必要。
- 安定的かつ有利な販売価格で取引を行うため、システム販売に取り組む必要。
- 県内の各組合と系統材安定供給協議会を立ち上げ、計画的な出材の調整を行い安定供給を図る。



# 木材輸出の取組

- 韓国のヒノキ需要の高まりから、地理的に近く、ヒノキ資源の多い対馬から輸出。
- 本土内の森林組合に呼びかけ、伊万里港に集約して輸出。
- 中国輸出の需要が高まるのに合わせ、スギ材の輸出にも取り組む。
- ロットを拡大し安定的な取引をする目的で、平成27年から九州北部3県、福岡・佐賀・長崎で伊万里港へ集荷し輸出。

## 系統材安定供給協議会 (連合会と県下8組合)



佐賀県伊万里市の木材市場

システム販売

A材・B材

韓国への輸出

九州北部3県(福岡・佐賀・長崎)での協力体制

C材

中国への輸出

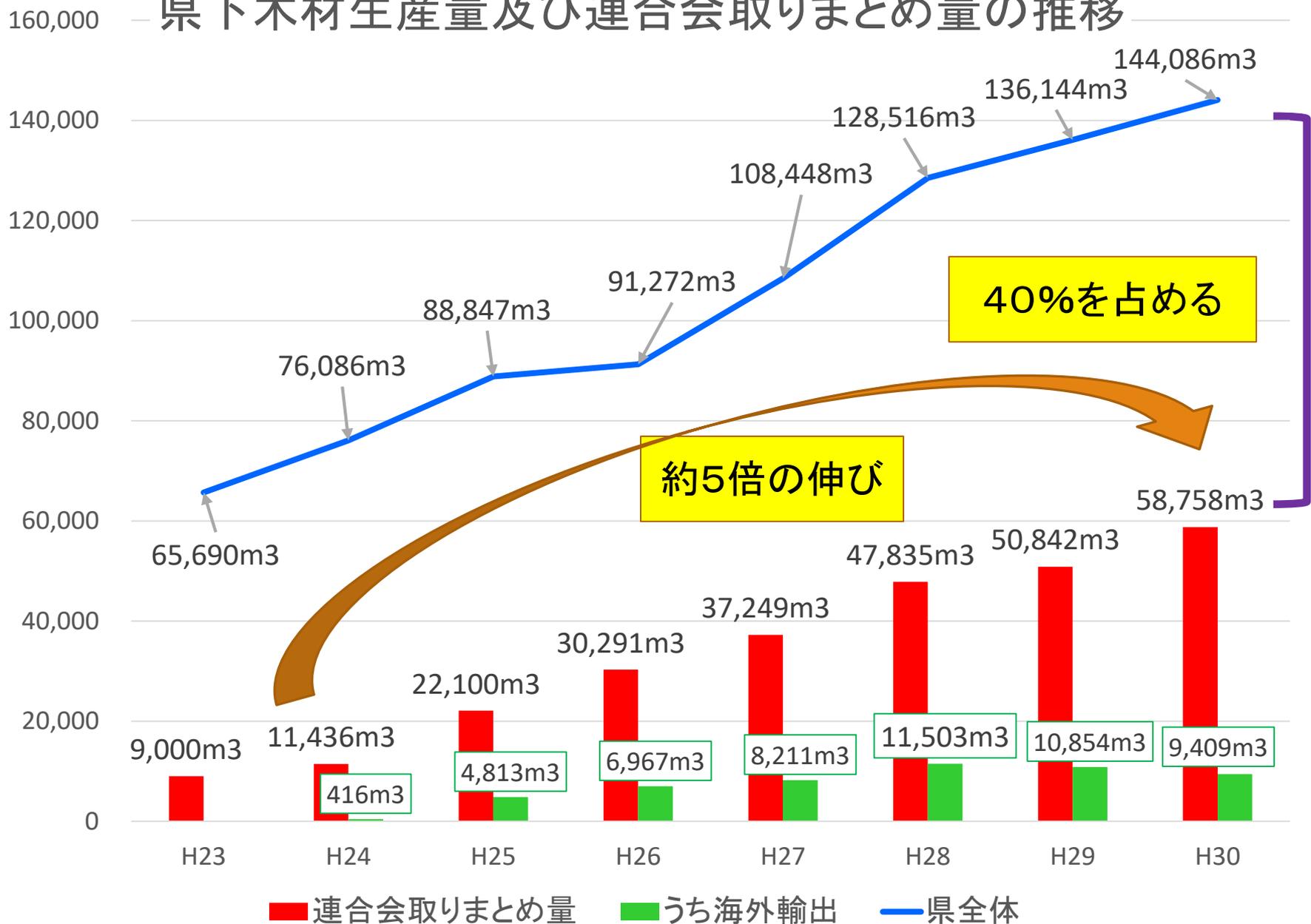
A材・B材

長崎県内の木材市場

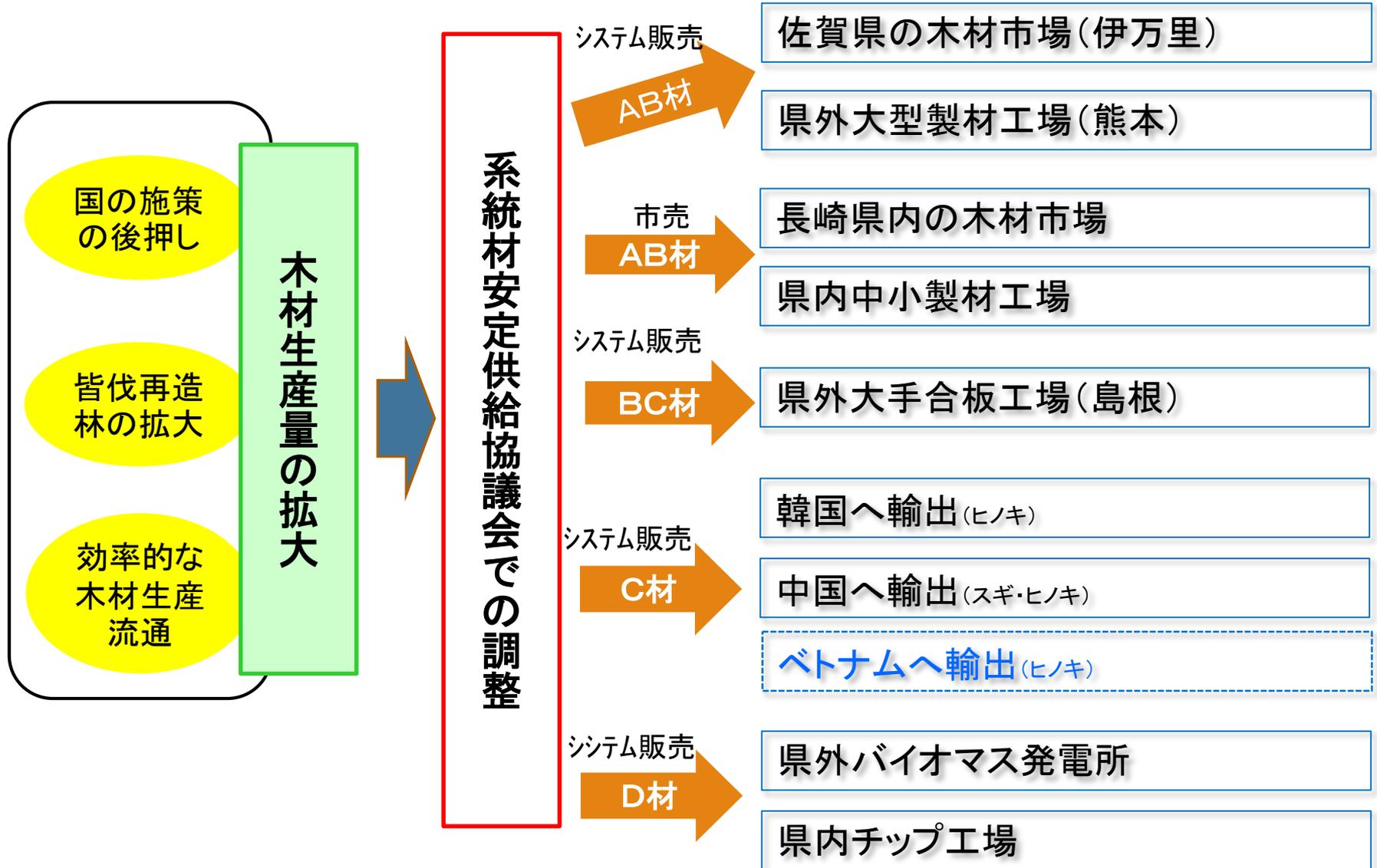
C材・D材

製紙用チップ

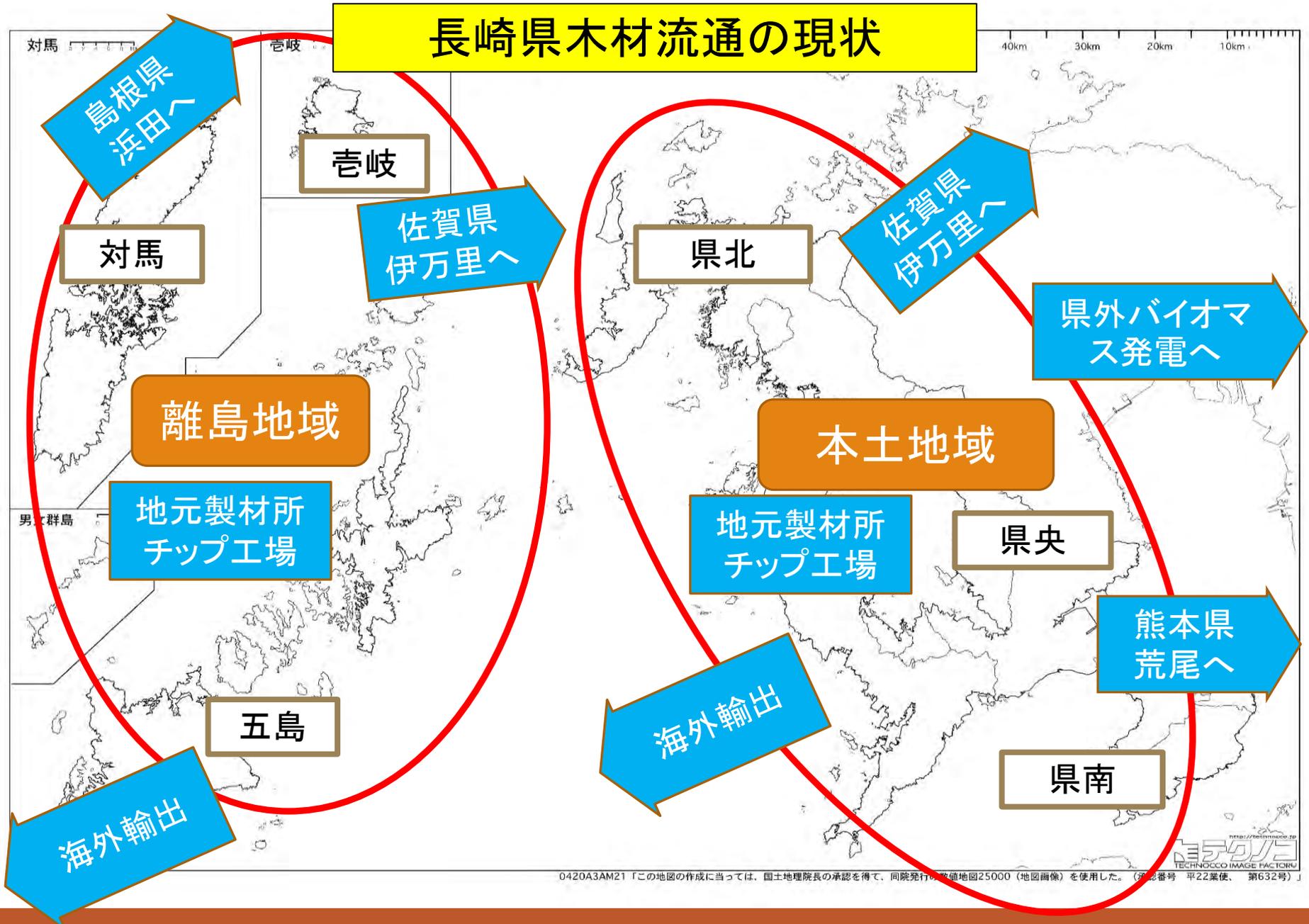
# 県下木材生産量及び連合会取りまとめ量の推移



# 長崎県木材流通の現状



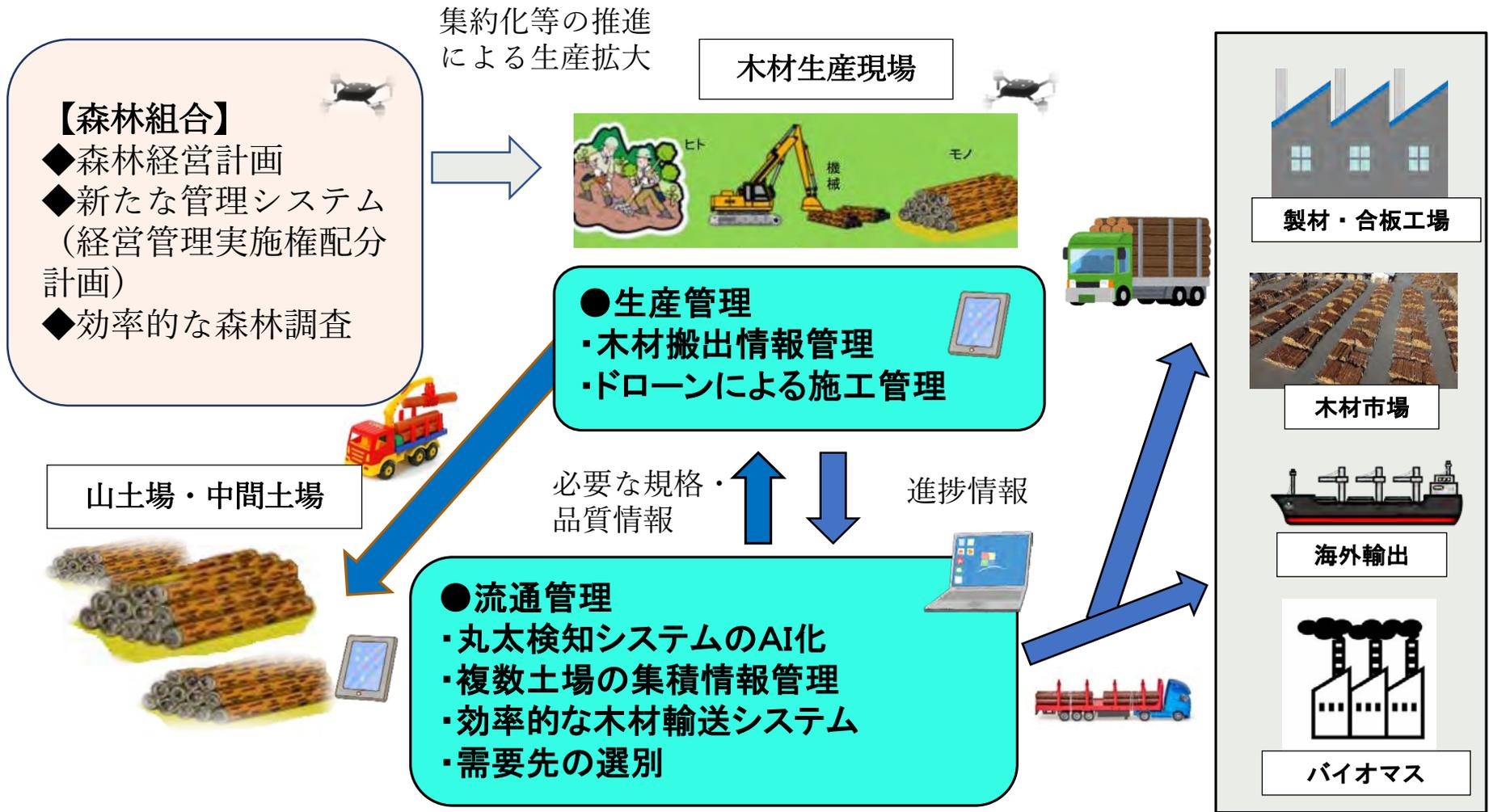
# 長崎県木材流通の現状



0420A3AM21 「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000（地図画像）を使用した。（承認番号 平22業使、第632号）」

# 今後の取組 ①

## ICTを活用した効率的な木材生産・流通システムの構築 ～ながさきスマート林業の推進～



## 九州の県森連系統での連携の取組

(大型製材工場等に対する九州内での安定供給体制の確立)

- 九州各地で大型製材工場や合板工場の新設・増設による需要増。
- 中国輸出の拡大に加え、新たな輸出先の開拓により、供給力の強化が必要。
- 木質バイオマス発電所も増え、バイオマス需要の拡大。
- 九州外からの木材供給要請への対応。



- ロットをまとめ、安定供給体制を確立するため長崎だけでなく他県との連携が必要。
- 価格交渉力を高めるため、窓口一本化が重要。



各県森連を束ねる全国森林組合連合会が中心となって、木材供給の窓口になる必要がある。

本年5月から熊本に駐在員を置き、木材流通のコーディネーター役を務めている。

## 最後に

- 県内の森林組合系統の連携強化にとどまらず、県内の他事業者とも協力して、流通・販売対策を行い、木材供給側として価格交渉力を高め、森林組合経営の強化や山元への還元を進める。
- さらに、全国森林組合連合会を中心として、九州全体を視野に入れた木材流通の連携体制を構築していく。



今後の林業の発展、成長産業化につなげていく。

**本日は、ありがとうございました！**